

聖霊とその役割

1. 聖霊理解のための仮説の手法

科学には「仮説」という論証の仕方がある。真偽はともかくとして、何らかの現象や法則性を説明するのに役立つ命題のこと。事実・観察などによる検証を通じて、事実と合致すれば定説となる。

例えば、「光は波と粒子の2面性を持っている。」というのは、光と波と粒子という既存のモノまた言葉の関係を表したものであるが、この関係性・命題が正しいかということは、仮説として提示され、実験と観察によって検証されるべきものである。

教会における聖書のように「正しい」を前提としたりしない。逆にいうなら、聖書の言葉は「仮説」と捉えてその正しさを検証するという科学的手法も可能である。

また、「光の2面性」が正しいという検証を得たら、波と粒子は全く違ったモノなのに、それらは互いに矛盾せず、同時に成立するという結論(仮説)も導かれ、科学による事象の解明は次へと展開していく。それは、論理的な推論であり、聖書理解にも適用できる。

こうした推論の手法は教会は拒否するかもしれないが、神様は拒否しないであろう。科学や仮説という手法も神様が与えてくださったモノであり、多くの検証を経ているからである。聖書の記述は、検証された仮説も検証されていない仮説もある。ただ聖書の場合の検証は、科学的な方法もあるが聖霊に聞くという方法もある

2. 聖霊の意味、それを読み解く言葉

- ・確かに人の中には霊があり、全能者の息が悟りを与える(ヨブ32:8)。
- ・生まれながらの人間は御霊に属することを受け入れません。...理解することができないのです(コリ2:14)。
- ・肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反する(ガラテヤ5:17)。
- ・真理の御霊が来ると、あなた方を全ての真理に導いてくれます(ヨハネ16:13)。
- ・あなた方は神の宮であって、神の御霊が自分の内に宿っていることを知らないのですか(コリント1,1:16)。
- ・預言は、...聖霊によって動かされた人たちが神から受けて語ったものです。(ペテロ2.15:21)
- ・愛する者たちよ、全ての霊を信じることはしないで、霊が神から...かどうか確かめなさい(ヨハネ1,4:1)。
- ・聖書は、全て神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え...導くのに有益である(テモテ2,3:16)。
- ・聖霊は自ら語るのではなく、聞いたことを全て語り、...あなた方に伝えてくださいます(ヨハネ11:13)。

聖書の以上のような記述から推論できる仮説(聖霊に聞いて、いただいた答え)は、

- 1 聖霊は、人間が持つ善悪の知識や良心と同様の霊であり、視覚聴覚の対象にはならない。
- 2 聖霊は、人が聞く心を持てば、人の霊と意思疎通し、神様の御心を知ることができる。
- 3 人の霊や良心は「セクハラ禁止」等教育や文化によるが、聖霊は創造主なる神の霊であり義である。
- 4 聖書や預言者の言葉は、神様からのメッセージを聖霊を通して聞き、自分の言語で表現したものである。

以上の仮説は、聖霊についての理解や聖霊との意思疎通にとって有益であろう。検証は、自分自身で行っていただきたい。

3. 「安息日」についての神の御心(聖霊による解釈1)

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。...それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである(出エジプト記20:8~11)。これについてパリサイ人たちは、安息日にしてはいけない規則を詳細に定め、イエスを試した。これは彼らが、安息日の意味や神様の御心を理解していないからである。それは、彼らを

エジプトの地から導き出すために、主が寝ずの番をされた夜であった。それでこの夜、イスラエルの子らは皆、世々に渡り、主のために寝ずの番をするのである。(出エジプト記12:42)

これも、主の御心を理解しているとはいいがたい。

肉体を住まいとしている間は、私たちは主から離れているということも知っています。(コリント2.5:6)とあるように、神様や聖霊が働いている間は、私たちは肉体の誘惑や危険から守られているが、神様は、四六時中・年中私たちを守ることは、人の霊の成長や自律のためならない、訓練が必要だと考えておられる。

そこで、象徴的な意味で6日間は神様が人間を守るが、安息日には神様の働きに対する感謝も込めて、人が自分から主を礼拝し、誘惑や危険から自分を守りなさいというメッセージが込められている。仕事をせず家にいなさいというのは、命令ではなく愛である。全焼の捧げものと生贄を神の前で食べるというのも、食と霊の安全を図ったものだし、モーセは山から民の所に降りて行って、民を聖別した。「...女に近づいてはならない」(出エジプト記19:14~15)も、人の霊が肉による誘惑を受けないためである。

4、「彼らの前に置くべき定め」(出エジプト記21:1~23:13)についての神の御心(聖霊による解釈2)

- ・あなたがヘブル人の男奴隷を買う場合、その人は六年間仕えなければならない。しかし、七年目には...
- ・自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。
- ・重大な障害があれば、命には命を、目には目を、歯には歯を...もって償わなければならない。
- ・所有をめぐるすべての違反...神が有罪と宣告した者は、それを二倍にして相手に償わなければならない。
- ・私の民の貧しい人に金を貸すなら、...利息を取ってはならない。
- ・あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会った場合、...彼の所に連れ戻さなければならない。
- ・...七年目には、その土地を休ませて...民の貧しい人々が食べ、その残りを野の生き物が食べるように...

これらの定めは、この時代に生きていた人が、自らの内にいる聖霊を通して教えられたことを、自分の言語と理解力で書き留めたものである。この意味は、これらの定めには必然的に時代的民族的背景が存在し、語り主の神が永遠普遍の方だからと言って、永遠に全地球的に通用するものではないということである。

また、言語表現については、「字義通りに解釈」という手法をとれば、例えば「父母をののしったら(裁きを担う祭司に)必ず訴え、我が子を殺さなければいけない」ことになる。

神の御言葉は、「光あれ」と「光があった」の原典がともに「光ある」であるように、命令と実行は一体である。神は、誰かに命令を伝達して実行するという手法はとらない。つまり、「殺さなければならぬ」は「殺せ」の意味はなく「それは死に値する」という「教え」であり、その罪を犯してはいけないという「戒め」である。そこには、イスラエル民族を紛争や混乱から守ろうとする神の愛がある。それが神の御心である。

「聖書に殺せと書いてあるから殺した」は、間違った解釈を実行している。もちろん、間違った解釈でも、その民族や社会に受け入れられることはあるが、神様から喜ばれることはない。

5、人の霊は学びと成長を通して、聖霊と交わる祝福が与えられる。

神は人をご自分のかたちとして創造された。...	神は心を通わすため人に霊を与えられた。
神である主は、...人がそれを何と呼ぶかをご覧になった。...	人の霊は対話するための言語を取得した。
人とその妻は裸だったが、恥ずかしいとは思わなかった。...	罪がないとき人の霊は神の霊と交流できた
二人は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。...	罪を犯し人の霊は聖霊と共感不能になった。
アブラハムは息子を生贄にせよという神の命令に聞き従った。...	神は人を選び、聖霊に聞き従うか試した。
あなたを...神とする、アロンがあなたの預言者となる。...	聖霊が直接ではなく預言者が民に語りかけた
預言者は偽りの預言をし、祭司は自分勝手に治め...	聖霊を受けて預言する者がいなくなった。
私はあなた方に悔い改めのバプテスマを授けていますが...	ヨハネは聖霊を妨げている罪を除こうとした

天が開け、神の御霊が...ご自分の上に降ってこられる... イエス様は聖霊を完全に享受された方である
私がある方に言う言葉は...父が自分の業を行っている... イエスの話した言葉は聖霊からの言葉である
父がお遣わしになる聖霊は、あなた方にすべてのことを教え... イエスによって信仰を得た人は聖霊を受ける
ペテロが...御言葉を聴いていたすべての人々に聖霊が下った... 彼らは、神を賛美し聖霊の言葉を話し始めた